

学術的文章作成時に留意すべき「書き言葉的」「話し言葉的」な語の文献調査

柏野 和佳子¹ 田嶋 明日香² 平本 智弥² 木田 真理³

¹ 国立国語研究所 言語資源研究系 ² 国立国語研究所 コーパス開発センター

³ 国際交流基金 日本語国際センター

1. はじめに

国語辞典に詳細な文体情報を記述するために、「書き言葉的」と「話し言葉的」という文体差のある語の調査を進めている。

近年、メールやブログの利用が広がり、「話し言葉的」な書き言葉が多用される傾向がある。その影響もあり、「書き言葉的」な語で記述すべき学術的文章に、「話し言葉的」な語が混じるという問題が教育の現場でしばしば指摘されている。学術的文章作成の指南書は数多く出版され、大学等ではアカデミックライティングの指導が行われている(例えば、二通ほか 2009, 仁科 2012, 佐渡島・太田編 2013)。また、学術的文章の作成を支援するために、教科書コーパスを利用し、学術的文章に多用される用語集を作成する試みが行われている(堀ほか 2013)。しかしながら、学術的文章で用いるとよい語とそうでない語というような、文体差のある語の組を網羅的に調査する文献や先行研究は残念ながら見当たらない。

そこで、日本語の作文技術に関する文献及び、書き言葉と話し言葉の相互関係に関する文献を広く収集し、そこから文体差のある語や表現を抽出している。現時点、32冊の書籍と、31件の論考より、留意すべき「書き言葉的」と「話し言葉的」の語のペアを延べ 1,172 組、表現のペアを延べ 80 組抽出した。本稿では文献の収集状況について報告するとともに、得られた語の傾向について報告する。

2. 調査

2.1 文献の収集方法

次の方法で収集した。

①WEB 検索

表1の検索ワードに基づきWEB上で検索した文献をWEB上にて閲覧、または国語研図書室、購入等により、閲覧して確認。

②参考文献一覧の参照

収集済み文献が参照しているものを確認。

③国立国語研究所研究図書室の参照

文体論、文章指導、日本語学習テキストなど、該当書架を確認。

表1 関連文献調査のための検索ワード

書き言葉	話し言葉
論文/レポート・言葉	論文/レポート・文章
論文/レポート・文体	論文/レポート・書き方
学術的・文章	学術的・文体
	文体的特徴
文章語	文章表現
	文章指導
	文章作法
アカデミックライティング	論文指導
[著者名] (書き言葉/話し言葉の文献著者名)	

2.2 文献からのデータ抽出

収集した文献より、「書き言葉的」と「話し言葉的」として示される語、ならびに、表現を抽出した。「書き言葉的」と「話し言葉的」なものがペアで示されているものはペアとして抽出した。2016年1月12日現在、文献の確認作業の進捗と、抽出データの有無による内訳は、表2の通り。また、書籍(作業済、作業中・作業予定)43冊の対象者内訳は表3の通り。

表2 文献の確認作業とデータ抽出の有無

	確認済 (抽出無)	作業済 (抽出有)	作業中・ 作業予定
書籍	約 130	32	11
論文	約 250	31	8

表3 書籍の対象者内訳

	作業済	作業中・ 作業予定
日本語学習者向け	7	7
日本語学習者・大学生向け	2	—
大学生向け	10	3
大学生・社会人向け	5	—
社会人向け	4	—
日本語教師・日本語学研究者向け	4	1

(留学生向けは日本語学習者向けに含む)

3. 抽出結果

抽出データは文献での提示方法等に沿い、便宜的に次の4通りに分類し整理中である。なお、抽出数は

いずれも延べの数である。また、ペアと単独の間にも、A)～D)の間にも重複を含む。

A) 「書き言葉的」「話し言葉的」とされる語

ペア:1,056組

例: 書き言葉的 / 話し言葉的

できる限り / できれば c) ※引用文献を表す。以下同様。今後 / これからさき d)

よって / なので、高齢者 / お年寄り g)

単独: 書き言葉的 157語 / 話し言葉的 191語

例: 書き言葉的

上述の 指示表現に類するはたらきを持つ表現。a)

いっこうに 小論文を書くときに使う主な副詞。否定を表し「～ない」などと呼応する。f)

例: 話し言葉的

だいたい 大ざっぱな認識論文で避けられる傾向にある言葉。d)

なんと… 感情を表す表現(客観的に書くには、感情・評価を表す表現を使わず、なるべく具体的に書く。h)

B) 特に、論文で使うか否かの観点で提示されている「書き言葉的」「話し言葉的」とされる語

ペア:116組

例: 書き言葉的 / 話し言葉的

大方 / ほとんどの人、当該 / それに当たる k)

種々の / 色々な、見出す / 発見する j)

単独: 書き言葉的 424語 / 話し言葉的 173語

例: 書き言葉的

推察する・推定する 論理的であるが根拠を示していない場合、経験的推測の場合などに使われる推測・判断の表現。j)

更に・まず 科学日本語でよく用いられる副詞。j)

例: 話し言葉的

私・私たち・我々 個人の立場を離れて客観的に述べる必要があるため、「私」「私たち」「我々」という代名詞は使わずに済ます方がレポート・論文らしくなる。「私は…と考える」→「…と考えられる」m)

ピンポイント 科学技術の表現としては不適切。「ピンポイントでしか測れない」→「測定面が非常に小さい」n)

C) 「書き言葉的」「話し言葉的」とされる表現

ペア:57組

例: 書き言葉的 / 話し言葉的

主に営業関係の仕事をしたい/営業関係などの仕事をしたりとかしたい、得るところは大きかった/為になった b)

仕事が予想より早く終わった/仕事が割りと早く片付いた p)

急増している / すごく増えている p)

単独: 話し言葉的 1表現

例: 話し言葉的

[倒置表現] 話し言葉では頻繁に起こる現象だが、書き言葉には似つかわしくない。o)

D) 特に、論文で使うか否かの観点で提示されている「書き言葉的」「話し言葉的」とされる表現

ペア:23組

例: 書き言葉的 / 話し言葉的

理論値に近い結果が得られた / 好結果 につながる n)

目視する / 目分量で読む n)

あまりにも 残念である・惜しい/もったいなさすぎる l)

一つの方法であろう / 手だろう l)

単独: 書き言葉的 517表現 / 話し言葉的 3表現

例: 書き言葉的

……N 傾向にある 主に文科系で使われる。長期間にわたる調査の結果の説明でよく使う。理科系でも序論で使うことがある。N には「上昇」「増加」など変化を表す名詞が用いられる。a)

ちなみに 主に人文・社会科学分野で用いられる表現。i)

例: 話し言葉的

書く機会をいただいた l)

さほど～ない 客観的な判断ではないので、科学技術文では使わない。n)

4. 「書き言葉的」「話し言葉的」とされる語

3章のA)で得られたペア1,056組のうち、文献で取り上げられていた最多件数の語は「書き言葉的」では「非常に」の28件であり、「話し言葉的」では「だから」の27件であった。この2語について組となって示されている語の内訳を次の表4と表5とに示す¹⁾。これらは文章作成時に、話し言葉的な「すごく」～「やばい」は書き言葉的な「非常に」と言い換えることが、話し言葉的な「だから」は書き言葉的な「したがって」～「よって」

表4 「非常に」の組の語 (件)

非常に	すごく	とつても	とても	超	チョー	ずいぶん	すごく	どんどん	めちゃくちゃ	やばい
28	10	7	3	2	1	1	1	1	1	1

表5 「だから」の組の語 (件)

だから	したがって	そこで	その結果	そのため	それゆえ	であることから	ですから	ゆえに	よって
27	14	1	1	4	3	1	1	1	1

¹⁾ 表4～8はいずれも「書き言葉的」をオレンジ色に、「話し言葉的」を緑色で表示する。表8で両分類の語は多い件数の方の表示とする。

のいずれかと言い換えることが、文献に提案されていることを表す。このような組を多く抽出できている。

ところで、3章でA)とB)とに分類した語には重複が見られる。そこで、抽出した語の見通しをよくするため、A)とB)とをあわせ、「書き言葉的」、「話し言葉的」それぞれの異なり語を求めた。さらに、「書き言葉的」と「話し言葉的」の両分類あわせての異なり語を求めた。その語数は「書き言葉的」が1,076語、「話し言葉的」が970語であった。それらをそのまま足すと2,046語になるが、実際は異なりの合計は1,900語であった。つまり、両分類にまたがる語が146語あることがわかった。

「書き言葉的」、「話し言葉的」とされる語として文献でとりあげられている語のうち、5件以上ある件数上位

表6 「書き言葉的」とされる語 (5件以上) (件)

しかし	33	その結果	8	ところが	6
したがって	30	そのような	8	どれほど	6
非常に	28	ただし	8	述べる	6
だが	22	ている	8	筆者	6
が	17	では	8	ゆえに	6
さらに	16	と	8	よって	6
たいへん	14	どちら	8	あちら	5
やはり	14	とても	8	あるいは	5
もともと	13	どのような	8	多くの	5
など	12	なぜなら	8	および	5
また	12	きわめて	7	かくして	5
まったく	12	[連用中止形]	7	考えられる	5
いかに	11	あまり	6	さて	5
このような	11	いかなる	6	し	5
少し	11	いろいろな	6	しかも	5
なお	10	かかる	6	たとえば	5
おそらく	9	必ず	6	次に	5
けれども	9	急速に	6	なぜ	5
しかしながら	9	さまざま	6	比較的	5
すなわち	9	少々	6	ほぼ	5
そのため	9	多少	6	まず	5
それゆえ	9	つまり	6	または	5
こちら	8	であろう	6	や	5
次第に	8	ではない	6		
そこで	8	というのは	6		

表7 「話し言葉的」とされる語 (5件以上) (件)

でも	31	そんな	9	ないで	6
だから	29	多分	9	わたし	6
ちょっと	29	ちゃんと	9	~だって	5
すごく	24	どっち	9	あんまり	5
けど	23	もっと	9	こういう風にして	5
だけど	19	けれども	8	この論文	5
とっても	19	なんか	8	しっかり	5
いっぱい	16	こっち	7	邪魔する	5
なので	16	自分	7	絶対	5
全然	13	少し	7	そういう風にして	5
やっぱり	13	それで	7	それと	5
いろんな	12	たら	7	たさんの	5
だんだん	12	てる	7	だろう	5
とか	12	思う	6	って	5
あと	11	じゃない	6	て	5
とても	11	ずっと	6	ですから	5
どんどん	11	大体	6	どんな	5
一番	10	だって	6	やばい	5
それから	10	だめだ	6	わりと	5
こんな	9	ちゃう	6	んだ	5

表8 両分類あわせた上位件数の語(10件以上) (件)

語	合計	内訳	
		書き言葉的	話し言葉的
しかし	34	33	1
でも	33	2	31
だから	32	3	29
したがって	30	○	
ちょっと	29		○
非常に	29	28	1
すごく	24		○
けど	23		○
だが	23	22	1
だけど	19		○
とっても	19		○
とても	19	8	11
が	18	17	1
少し	18	11	7
けれども	17	9	8
たいへん	17	14	3
いっぱい	16		○
さらに	16	○	
なので	16	○	
やっぱり	15	2	13
やはり	15	14	1
全然	14	1	13
もともと	14	13	1
など	13	12	1
まったく	13	12	1
いろんな	12		○
それから	12	1	10
だんだん	12		○
とか	12		○
また	12	○	
あと	11		○
いかに	11	○	
このような	11	○	
それで	11	4	7
どんどん	11		○
一番	10		○
いろいろな	10	6	4
おそらく	10	9	1
しかしながら	10	9	1
と	10	8	2
なお	10	○	
なぜなら	10	8	2
よって	10	6	4
わたし	10	4	6

の語を、それぞれ表6と表7とに示す。また、両分類をあわせて10件以上ある件数上位の語とその分類の内訳を表8に示す。「○」は分類が一方のみの語である。

表8より、両方に分類される語は少なくないことがわかる。5件以上の開きのない件数を黄色く表示したが、複数ある。組となっている語を確認してみると、例えば、書き言葉的「とても」は話し言葉的「とても、すごく」の組として示されている。話し言葉的「とても」は書き言葉的「たいへん、非常に、極めて、著しく」の組として示されている。また書き言葉的「少し」は話し言葉的「ちょっと、少々」の組として示されている。話し言葉的「少し」は書き言葉的「やや、少々、多少、若干」の組として示されている。このように、組でみればそれぞれにより書き言葉的、より話し言葉的な語として分類されていることがわかる。森山(2003)も、話し言葉と書き言葉の違い

ははっきり分かれるものではなく、段階的なものであると述べている。ただし、この例の中で「少々」と「少し」の関係は、文献によってまったく逆の例としてあげている点には注意が必要である。文体差の判断にゆれのある例は今後検証が必要である。

5. おわりに

文献調査により、書き言葉と話し言葉という文体差のある語や表現を抽出した。留意すべき「書き言葉的」「話し言葉的」とされる語は、あわせて異なりで1,900語を得ている。接続詞・副詞についての言及が多い。それに動詞、文末表現などが続く。

文体差の観点の一つに、和語か漢語かというものがある。名詞は一般に和語に比べ漢語の方が専門的であることが多いが、石黒(2012)は接続詞については漢語が話し言葉的であり、和語が書き言葉的であることに注意が必要であると指摘する(例:全然, 多分, 絶対, 全部, 一番は話し言葉的であり, まったく, おそらく, からならず, すべて, もっともは書き言葉的)。石黒(2012)はまた、別の観点として、「書き言葉」であっても、主観・曖昧・強い断定…などを示している語は論文に相応しくないとし、例えば、「必ず」は100%の限定となるため論文では避け、「ほとんど」とする方がよい、と例示する。さらに、3章のD)の例にあげたように、文系論文、理系論文という観点も存在する。

文献調査はまもなく終了予定である。語の文体差について宮島(1977)以来まとまった考察が見られていないため、今後は、抽出した語の文体差をさまざまな観点により分析したい。木田・柏野(2012)で試みたように、コーパスを利用した文体差の分析も予定している。

[謝辞] 本研究は、JSPS 科研費 26370554 並びに、JSPS 科研費 25282060 の助成を得ています。

[参考文献]

- 石黒圭(2012)『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社
- 木田真理・柏野和佳子(2012)「書き言葉均衡コーパスを活用した文体的特徴を持つ語の分析と記述の試み —アカデミック・ライティング指導を例に—」『日本語教育国際研究大会名古屋予稿集』A268.
- 佐渡島紗織・太田裕子(編)(2013)『文章チュータリングの理念と実践—早稲田大学ライティング・センターでの取り組み』ひつじ書房.
- 仁科喜久子(監修)(2012)『日本語学習支援の構築』凡人社.
- 二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子(2009)『留

学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会.

堀一成・坂尻彰宏・石島悌(2013)「BCCWJ 教科書データより抽出した頻度情報に基づく日本語ライティング指導教材の作成」『第4回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』pp.45-52.

宮島達夫(1977)「単語の文体的特徴」『村松明教授還暦記念国語学と国語史』明治書院, pp.871-903.

森山卓郎(2003)「話し言葉と書き言葉を考えるための文法研究用語・12」『國文學 解釈と教材の研究』48(12), 學燈社, pp.15-22.

[引用文献]

- a) アカデミック・ジャパニーズ研究会(編著) (2002)『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク.
- b) 網本尚子・河本明子・押川聖子・上野麻美(2012)『新版 日本語表現法』アイ・ケイコーポレーション.
- c) 石黒圭(2004)『よくわかる文章表現の技術 I —表現・表記編—』明治書院.
- d) 石黒圭(2012)『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社.
- e) 石黒圭(2014)『「うまい!」と言わせる文章の裏ワザ』河出書房新社.
- f) 創学社大学入試研究会(編)(1993)『小論文 留学生のための大学入試シリーズ①』国書刊行会.
- g) 清水明美・岩沢正子・加藤清・武田明子・福沢健(2011)『Practical 日本語.成功する型文章表現編(改訂版)』おうふう.
- h) 友松悦子(2008)『小論文への12のステップ: 中級日本語学習者対象』スリーエーネットワーク.
- i) 二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会.
- j) 野ロジュディー(監)林洋子(2015)『理系留学生のための日本語』講談社.
- k) 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版.
- l) 原口厚(2011)「失敗に学ぶ—より良き日本語レポート・論文の文体とことば遣いのために」『文化論集』38, 早稲田商学同攻会, pp.123-168.
- m) 樋口裕一(2002)『やさしい文章術: レポート・論文の書き方』中央公論新社.
- n) 深尾百合子(2013)『科学技術文を書くための基礎知識「書き言葉」って?』アグネ技術センター.
- o) 三宅和子(2005)「日本語の世界を探索する(四) —話しことばと書きことば—」『東洋』42(1).
- p) 森下稔・鴨川明子(編)(2007)『理工系学生のための日本語表現法: 大学における初年次教育』東信堂.